

潮流

天皇、皇后両陛下が訪問される中国でいま、日本の天皇制を概説した「日本天皇列伝」という本が出版され、話題だ。歴代天皇を列伝風に紹介し、天皇制の歴史にも触れた中国初の一般書だ。陛下を「戦後の新教育で民主主義、平和主義の影響を強く受けた」と積極的に評価しており、ついでの間までの天皇制批判の文書は一音もない。中国の天皇観は変わったのか。

出版は昨年十二月だが、すでに書店に並ぶ日本とは違い、中国で店頭に並んだのは今年の夏ごろから。外国の報道関係者の注目を集め、中国書籍を扱っている

変わる？中国の天皇観

東京・神田の内山書店の三浦勝利編集部長は「幹部向け内部発行の本や研究論文はあったが、一般向けは初めてではないか」。

著者は蔣立峰氏。中国社会科学院日本研究所政治室副研究員。版元の東方出版社は、中国研究者によると「時々々の政治・外交問題に対する中国政府の見解を人民に知らせる目的で本を出す出版社」とされ、三浦部長は「ご訪中受け入れの関係部門には『読むように』という通達が出ていると思う」。

初版は五千部だが現地の入手が難しいほどの売れ行き。雑誌の中国特集で、この本の紹介をしようと

陛下は民主、平和主義者

たある日本の大手出版社が予告広告まで出しながら「手に入らなかつた」という理由で掲載を断念した。

本は五章構成で、第一章は「天皇は再び政治の舞台に」と題され、歴代天皇の

「在学中に『日本の再軍備には反対』と主張した」と天皇は再び政治の舞台に、これまでに四十余りの国を訪問している「魚類学」の研究者として二十五の

「天皇は再び政治の舞台に」と題され、歴代天皇の成年代的明仁天皇、平成天皇の

「天皇は再び政治の舞台に」と題され、歴代天皇の成年代的明仁天皇、平成天皇の

「天皇は再び政治の舞台に」と題され、歴代天皇の成年代的明仁天皇、平成天皇の

メディア総動員

「ご訪中に向けてメディアが総動員されるのは、これからでしょう」と中国研究者はいう。中国のこの新しい天皇観が定着するの

か、それとも歓迎ムードを盛り上げるための一時的な演出なのか。

（社会部 田中良幸）